

1 3. 出荷不適ひなからの抗体検査法の検討

宇佐家畜保健衛生所

○甲斐千佳子、長谷部恵理

(病鑑) 長岡健朗、吉田秀幸

1. はじめに

種鶏農場での衛生対策は、その農場のみならずその下流にあたるコマーシャル農場の衛生向上が期待できる。当家保管内には2カ所の孵化場と5農場の種鶏農場があり、それら農場への衛生指導が望まれる。しかし、種鶏農場内に立ち入ることは難しい場合が多い。よって、農場内に立ち入ることなく、鶏群の抗体保有状況を調べる手段として出荷不適ひなからの抗体検査法について検討したので報告する。

2. 材料及び方法

(1) 検査日齢の検討：同一農場由来のひな111羽について0日目、2日目、5日目と経時的に採血し、ニューカッスル病 (ND) 抗体価の測定を行い、最適日齢を検討した。

(2) 破卵、出荷不適ひなおよび種鶏の比較：破卵卵黄、同一時期の卵由来と推察される出荷不適ひなおよび種鶏血清についてNDおよびマイコプラズマ (MG) 抗体価を測定し、その保有状況を比較した。

3. 結果

(1) 検査日齢の検討：0日目、2日目および5日目においてND抗体価が最高値を示した個体が多くみられたのは、2日目だった。

(2) 破卵、出荷不適ひなおよび種鶏との比較：破卵卵黄、出荷不適ひなおよび種鶏の平均抗体価 (NDおよびMG) にはそれぞれ有意差はみられなかった。

4. まとめ

出荷不適ひなは、体型異常やへそのしまりなどのさまざまな要因で出荷不適となる。体型異常がND抗体価に影響を与えているとは考えにくく、また出荷不適ひなにおいて体重とND抗体価を調べたところ相関はなく、出荷不適ひなは通常出荷されるひなの移行抗体を推測するのに有用であると考えられた。多くの個体で2日目にND抗体価が最高値を示したことから、2日目が採血適期であると考えられた。破卵卵黄、出荷不適ひなおよび種鶏の抗体価はほぼ同様な値を示し、それぞれ有意差はみられなかった。破卵および出荷不適ひなはどちらも、種鶏の抗体保有状況を反映していると考えられた。一方で、出荷不適ひなを用いた方法は、簡易採血器具の利用により簡便で安価に採血でき、前処理を必要とする破卵を用いた方法に比べてより優れた方法であると考えられた。

出荷不適ひなを用いた抗体検査法は、通常出荷されるひなおよび種鶏の抗体保有状況を調べる手段として有効な方法であると考えられた。